

昭和館報

令和7年度

口 絵			
ごあいさつ	1		
フロア構成	2		
年間主要行事	3		
令和7年度事業概要	4		
I 展示事業	4		
1 常設展示	4		
(1) 常設展示室の概要	4		
(2) 展示資料の入れ替え	4		
2 巡回特別企画展の開催	4		
(1) 第47回巡回特別企画展			
「戦後80年 昭和館・大和ミュージアム合同企画展			
再現展示「この世界の片隅に」～よみがえる昭和の情景～」	5		
(2) 第48回巡回特別企画展(3館連携企画展)			
「戦後80年 ミニ展示 昭和のくらしー秋田展ー」	5		
3 貸出キット	6		
4 紙芝居定期上演会	7		
5 実物資料の収集と保存	7		
(1) 実物資料の収集	7		
(2) 実物資料の保存と補修	7		
II 図書映像資料等閲覧事業	7		
1 図書文献関係	7		
(1) 運用管理	7		
① 閲覧室及び書庫の管理	7		
② レファレンス・サービス(参考調査業務)	8		
③ 利用ガイドの発行	8		
④ 展示関連図書の公開と参考図書			
リストの配布、読書案内	8		
⑤ ブックリストの作成	9		
⑥ ホームページ	9		
⑦ 蔵書点検	9		
⑧ 利用状況	10		
(2) データ管理	11		
(3) 保存管理	11		
(4) 業務研修	11		
2 映像・音響関係	11		
(1) 資料整理、デジタル化	11		
(2) 昭和館SPレコード鑑賞会	11		
3 ニュースシアター	12		
4 収蔵資料	12		
(1) 図書資料の収蔵状況	12		
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	13		
III 関連情報提供事業	14		
1 運用管理	14		
(1) システム運用管理	14		
(2) データベース運用管理	14		
(3) デジタルアーカイブの運用	15		
(4) ホームページ運用管理	15		
(5) SNSの活用	16		
(6) Wi-Fi提供	16		
2 オーラルヒストリーの制作	16		
IV 啓発広報等事業	17		
1 広報活動	17		
(1) 広報資料の作成及び発送	17		
(2) 広報と掲示及び掲載	17		
(3) 昭和館だよりの発行	17		
(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業	17		
① 事業の概要	17		
② 事業の実施状況	18		
(5) 第24回昭和館作文コンクール	21		
(6) 第18回昭和館中学生・			
高校生ポスターコンクール	21		
2 『昭和のくらし研究』の刊行	22		
3 昭和館運営専門委員会の開催	23		
4 昭和館運営有識者会議の開催	23		
5 インターンシップ	23		
6 関係施設等連携会議の開催等	24		
(1) 第28回、第29回会議について	24		
(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	24		
(3) 特別展「水彩画が語るシベリア抑留の記憶」を開催	24		
(4) 巡回特別企画展の相互協力	24		
(5) 戦後80年記念事業	24		
① 戦後80年 記念シンポジウム			
「記憶」を伝えるということ	24		
② 戦後80年記念スタンプラリー	25		
③ 特別映画上映会	25		
7 天皇后両陛下、愛子内親王殿下の行幸啓	25		
V 特別企画展等の開催及び概要	25		
1 戦後80年特別企画展			
「社会を映す、動かす			
一ポスターにあらわれる国策宣伝の姿」	25		
2 特別企画展「昭和映画録二度の黄金時代」	26		
3 戦後80年特別企画写真展			
「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」	27		
4 戦後80年特別企画写真展			
「石川光陽写真展【第3期】終戦・復興する東京」	27		
5 戦後80年特別企画リバイバル展示			
「石川光陽写真展 戦時下の東京」	28		
6 資料公開コーナー	28		
参 考			
1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和7年度)	29		
2 令和7年度利用者実績	30		
3 常設展示室入場者数	30		
4 来館団体御芳名	31		
5 第24回昭和館作文コンクール			
厚生労働大臣賞・昭和館館長賞受賞作品	32		
6 第18回昭和館中学生・高校生ポスター			
コンクール入賞作品の紹介	34		
7 施設概要	35		
8 令和7年度寄贈者御芳名	37		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「統制下の暮らし」



6階 常設展示室「復興に向けて」



6階 常設展示室「昭和の暮らし—昭和30年代体験エリア—」
(令和7年度リニューアル)



5階 映像・音響室



4階 図書室



戦後80年 特別企画展
「社会を映す、動かす—ポスターにあらわれる国策宣伝の姿—」
（令和7年7月19日（土）～9月7日（日））



特別企画展
「昭和映画録 一二度の黄金時代—」
（令和8年3月20日（金）～5月10日（日））



戦後８０年 昭和館・大和ミュージアム合同企画展
「再現展示『この世界の片隅に』～よみがえる昭和の情景～」
ＪＭＳアステールプラザ １階市民ギャラリー
（令和７年５月３０日（金）～６月５日（木））



戦後８０年 昭和館・しょうけい館・帰還者たちの記憶ミュージアム
３館連携企画展
「ミニ展示 昭和の暮らし -秋田展-」
秋田県立美術館 県民ギャラリー
（令和７年９月２９日（月）～１０月７日（火））



紙芝居定期上演会
1階ニュースシアターにて



戦後80年特別企画写真展
「石川光陽写真展 終戦・復興する東京」
(令和7年7月5日(土)～12月21日(日))



1 階ニュースシアターにて
S P レコード鑑賞会
(令和 7 年 8 月 1 7 日 (日))



戦後 8 0 年 記念シンポジウム 「記憶」を伝えるということ
～戦争体験者がいない未来の戦没者関連事業・伝承・メディア～
九段会館テラス 2 階鳳凰の間
(令和 7 年 8 月 3 日 (日))



戦後80年記念 特別映画上映会
(令和7年10月19日(日))



天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下が行幸啓
特別企画写真展及び常設展示室をご観覧
(令和7年12月21日(日) 撮影：昭和館)

ご あ い さ つ



昭和館は、昭和の時代に国民が経験した戦争とその時代の国民生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、悲慘な戦争の記憶と困難を極めた国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館し、令和8年6月には、これまでの総入館者数が732万人を数えるに至りました。

さて、令和7年度の活動状況につきまして、特別企画展は、3月から5月は「版画家が刻んだ昭和の彩りー館蔵版画集を中心にー」、また、7月から9月は「戦後80年特別企画展「社会を映す、動かすーポスターにあらわれる国策宣伝の姿」」、写真展は、3月から6月は「戦後80年特別企画「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」」、7月から12月は「戦後80年特別企画「石川光陽写真展【第3期】終戦・復興する東京」」、12月は重ねて、「戦後80年特別企画リバイバル展示「石川光陽写真展 戦時下の東京」」を開催しました。このリバイバル展示には、天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下が行幸啓され、常設展示室と併せてご観覧されました。

加えて、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、夏休み3館めぐりスタンプラリー、小学生・中学生の作文コンクール、中学生・高校生のポスターコンクール、奇数月の紙芝居上演会、紀要「昭和のくらし研究」発刊などを実施し、さらに「次世代の語り部」事業では、現在、育成を終えた18名の語り部が、館内での定期講話会に加えて、小・中学校や自治体の平和イベント等へ赴いて講話を行いました。

また、巡回特別企画展については、5月に広島県（広島市）、9月に秋田県（秋田市）で開催し、広島県では、戦後80年企画として、大和ミュージアムと共催しました。また、秋田県では「しょうけい館」・「帰還者たちの記憶ミュージアム」との3館連携企画展を同一会場で実施することができました。

さらに、8月は、戦後80年記念シンポジウム、本年3月から5月にかけて、特別企画展「昭和映画録ー二度の黄金時代ー」を開催することができました。

なお、6階常設展示室の体験ひろばに昭和30年代の町並みを再現するリニューアルは本年2月に全面改修を終え、公開しております。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和7年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

今後とも若い世代の皆様に昭和の戦争の記憶と戦中・戦後の様々な国民の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努めるとともに、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年7月

昭和館
館長 伍藤 忠春

フロア構成

常設展示室（入口）

7 階

常設展示室（出口）

6 階

映像・音響室

5 階

図書室

4 階

研修室・会議室

3 階

広 場

2 階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1 階

資料収蔵室

地下 1 階

設備管理室

地下 2 階

年間主要行事

令和7年 3月1日～6月29日	戦後80年特別企画写真展を開催 「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」
3月15日～5月11日	特別企画展を開催 「版画家が刻んだ昭和の彩り―館蔵版画集を中心に―」 紙芝居定期上演会（原則奇数月第4土曜日） 次世代の語り部定期講話会（原則毎月第1日曜日）
5月30日～6月5日	第47回巡回特別企画展を開催 「戦後80年 昭和館・大和ミュージアム合同企画展 再現展示「この世界の片隅に」～よみがえる昭和の情景～」
6月24日	令和7年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月30日～7月2日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
7月5日～12月21日	戦後80年特別企画写真展を開催 「石川光陽写真展【第3期】終戦・復興する東京」
7月19日～9月7日	戦後80年特別企画展を開催 「社会を映す、動かす―ポスターにあらわれる国策宣伝の姿―」
7月19日～9月7日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
8月3日	戦後80年記念シンポジウムを開催 「記憶」を伝えるということ
8月6日～8月7日	こども霞が関見学デー
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
8月17日	S Pレコード鑑賞会
9月29日～10月7日	第48回巡回特別企画展を開催 「戦後80年（3館連携）ミニ展示 昭和のくらし 秋田展」
10月19日	戦後80年記念 特別映画上映会を開催
12月16日～12月26日	戦後80年特別企画リバイバル展示を開催 「石川光陽写真展 戦時下の東京」
令和8年 1月6日～2月9日	常設展示室の展示替え工事及び資料交換を実施（休室）
2月24日～3月9日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
2月25日	令和7年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月6日	第26回昭和館運営有識者会議を開催
3月20日～5月10日	特別企画展を開催 「昭和映画録―二度の黄金時代―」

令和7年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

（「V 特別企画展等の開催及び概要」参照）

1 常設展示

（1）常設展示室の概要

常設展示室では、昭和の時代に国民が経験した戦争の記憶を継承し、またその時代の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から昭和20年(1945)8月15日（終戦）までの戦中の暮らしを、6階では、終戦から戦後復興を成し遂げた昭和40年代にかけての戦後の暮らしを紹介している。

（2）展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和7年度は、6月30日（月）から7月2日（水）までの3日間で資料交換作業を実施した。また、令和8年1月6日（火）から2月9日（月）までの35日間、常設展示室を休室し、LED照明交換工事、体験ひろば改修工事、一部展示ケース交換、資料交換作業を実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和7年度は、次の通り実施した。

(1) 第47回巡回特別企画展

「戦後80年 昭和館・大和ミュージアム合同企画展

再現展示 『この世界の片隅に』～よみがえる昭和の情景～」

開催期間 令和7年5月30日（金）～6月5日（木）

会場 JMSアステールプラザ 1階市民ギャラリー
(広島県広島市中区加古町4-17)

主催 昭和館

共催 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

協力 一般財団法人広島県遺族会および一般財団法人日本遺族会第4ブロック

企画協力 株式会社コアミックス

後援 広島県 広島県教育委員会 広島市 広島市教育委員会
呉市 呉市教育委員会 中国新聞社 NHK広島放送局
中国放送 広島テレビ テレビ新広島 広島ホームテレビ
ちゅピCOM FMちゅーピー76.6MHz 広島エフエム放送

内容 昭和館は、広島県呉市を舞台とした漫画『この世界の片隅に』に登場する人物や風景、当時のくらしに関わる実物資料を使った再現展示を試みた。原作者のこうの史代さんが漫画を描く際に参考にした実物資料や「残飯雑炊」の復元品など、作品の中に登場するアイテムを多数展示した。

入場者数 1,051人（150人／日）

(2) 第48回巡回特別企画展

「戦後80年 昭和館 しょうけい館 帰還者たちの記憶ミュージアム
3館連携企画展 ミニ展示 昭和のくらし ー秋田展ー」

開催期間 令和7年9月29日（月）～10月7日（火）

会場 秋田県立美術館 県民ギャラリー
(秋田県秋田市中通1-4-2)

主催 昭和館

協力 一般財団法人秋田県遺族連合会および一般財団法人日本遺族会第1ブロック

後援 秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、秋田市教育委員会
秋田魁新報社、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送

内容 戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、次の世代へ語り継ぐため、東京の3つの国立の施設が合同で展示を行った。

昭和館は、戦争がもたらした苦難や昭和の人々のくらしを、貸出キットを使ってコンパクトに紹介した。

同時開催 しょうけい館（戦傷病者史料館）、帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）（3館連携企画展）

入場者数 1, 628人(180人/日)



広島展



秋田展

3 貸出キット

令和7年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸 出 先> (貸出実施順)

(学校) 6校

上野原市立上野原西中学校／横浜市立本牧中学校／高浜町立内浦小中学校／
横浜市立岩崎小学校／久喜市立久喜小学校／早稲田実業学校初等部

(地方公共団体) 24自治体

湖西市役所地域福祉課／横須賀市役所(2回)／神奈川県福祉子どもみらい局(2回)／周南市／鈴鹿市役所／和歌山市／川口市役所／千葉県健康福祉部健康福祉指導課／調布市役所／北海道庁／上尾市役所／鹿児島市役所／台東区役所総務部総務課(2回)／八潮市役所／茨城県福祉部長寿福祉課／宮崎市福祉総務課／鹿児島県保健福祉部社会福祉課／越谷市総務部総務課／大淀町立図書館／東京都福祉局生活福祉部／渋谷区文化振興課

(一般団体) 18団体

大森コラボレーション／苫小牧市遺族会／知多市遺族会(3回)／綾瀬市遺族会／曹洞宗栃木県宗務所／連合富山／浜松市遺族会／庄原市戦没者遺族会／山形市遺族連合会／石川県遺族連合会／熊本県遺族連合会／渋川市遺族会／特別養護老人ホーム木下川吾亦紅／新座市遺族会／社会福祉法人益田市社会福祉協議会／蔵持地区まちづくり委員会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。入場者の状況は以下の通りである。

上 演 月	入 場 者
令和7年 5月24日	70人
7月26日	97人
9月27日	74人
11月22日	90人
令和8年 1月24日	85人
3月28日	258人
合 計	674人

5 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和7年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。寄贈資料として、「半藤一利関連資料」、「子ども服（軍服風）」、「疎開先で書いた日記」等445点の受入を行った。

収蔵資料数は次表の通りである。（令和8年3月末現在）

寄 贈 資 料	46,698点
購 入 資 料	14,641点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,229点
合 計	64,568点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和7年度は68点のポスター資料の修復および脱酸処理をおこなった。

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和7年度に対応したレファレンスは452件であった。内容は戦後80年の節目の年であったことから、家族や親族の軍歴、戦没者に関する調査の他、空襲被害や戦時中から戦後復興期の生活に関するレファレンスが多く、学生から社会人、放送出版関係者まで幅広い層から調査依頼を受けた。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内および入口に展示し、閲覧できるコーナーを設けている。

平成27年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2～3カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、令和7年度は巡回特別企画展を開催した広島県、秋田県を含め6府県の関連資料を紹介した。

継続企画以外では、「生誕100年 三島由紀夫」、「終戦直後の暮らしを支えた闇市」、「戦後〇年 節目の年にちなんだ本」の他、「終戦の年 昭和20年11月・12月」（終戦から80年）、令和8年に入ってから「教室からみた憲法」（憲法公布から80年）等、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、特別企画展「版画家が刻んだ昭和の彩り—館蔵版画集を中心に—」特別企画展「社会を映す、動かす—ポスターにあらわれる国策宣伝の姿—」、「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」「石川光陽写真展【第3期】終戦・復興する東京」、資料公開コーナー「食卓からみた昭和」「新収蔵資料紹介 愛児の家 ～「ママ」と戦災孤児の10年間～」等の関連資料を紹介した。

令和7年4月29日（火）～5月6日（火）のゴールデンウィーク期間

中に、読書への関心を高めてもらうため、小・中学生を対象に「クイズ 本の中からこたえをさがし出そう」を実施し、イベントに参加した49名の子どもたちに図書室オリジナルの読書手帳を贈呈した。

令和7年7月19日（土）から9月7日（日）まで、小・中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布し、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にしたテーマ別の「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。特別企画展「社会を映す、動かす—ポスターにあらわれる国策宣伝の姿—」に関連したワークシートの他、「学校生活」「戦時下の衣服」「くらしの道具」「学童疎開」「昭和20年 終戦の年」、高校生以上を対象にした「図書室ワークシート」とあわせて7種類を配布したところ、815枚配付し303枚の提出があった。ワークシートに挑戦した子どもたちには、図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和8年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した特別展「水彩画が語る シベリア抑留の記憶」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携を図った。

⑤ ブックリストの作成

戦後80年を記念し、「読んで学ぼう戦中・戦後のくらし」と題して6階常設展示室の戦中の暮らしに関する各ブースに沿った司書おすすめの本を紹介するブックリストを作成した。常設展示室を見学した方、これから見学する方が、紹介本を読んで戦中の暮らしについて理解を深められるような内容とした。なお、7階常設展示室に沿った戦中の暮らしに関するブックリストは令和6年度に作成済。

⑥ ホームページ

図書室の紹介ページでは、「ちょこっと所蔵資料」と題して開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内でのテーマ別の資料紹介についても随時情報を更新し、利用を促している。

⑦ 蔵書点検

令和8年2月24日（火）から3月9日（月）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び4階閉架書庫内の図書を重点的に点検、必要に応じて蔵書の移動を行い、破損が著しい図書の修理や製本を行った。

⑧ 利用状況

令和7年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和7年4月	1, 121	252	1, 094
5月	1, 145	232	884
6月	1, 298	248	834
7月	1, 800	243	903
8月	2, 353	352	1, 443
9月	1, 296	262	1, 179
10月	1, 115	252	776
11月	1, 210	283	1, 092
12月	1, 036	180	618
令和8年1月	927	198	646
2月	959	196	802
3月	1, 017	185	609
合 計	15, 277	2, 883	10, 880

令和7年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	176	2, 990
哲学	17	9
歴史	1, 199	398
社会科学	1, 957	889
自然科学	27	76
技術・工学・工業	322	572
産業	115	98
芸術	231	681
言語	14	3
文学	930	119
合 計	4, 988	5, 835

図書の利用内訳は、「社会科学」分野では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。雑誌の利用内訳は、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌「総記」分野が最も多く、次いで「社会科学」「芸術」分野となった。「社会科学」では図書と同様に国防・軍事関係が多く、「芸術」分野ではスポーツと映画関係が多かった。

(2) データ管理

収蔵図書の書誌及び目次データは、随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和7年度は令和6年度に受け入れた図書・雑誌1,225冊の書誌及び目次データの入力と装備を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和7年度は404冊の破損本を修理した。

劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に例年職員業務研修に参加している。

令和7年度は「第27回図書館総合展」に参加し、業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、ゴールデンウィーク期間には、昭和館への興味・関心を高め、来館につなげることを目的として、SNSを使って映像・音響室の資料の紹介した他、47都道府県のオーラルヒストリーのリストを配布した。

夏休み期間中には、小・中学生向けの基本編と高校生以上を対象とした上級編のワークシートの配布をしたところ、926枚配付し810枚の提出があった。参加者にはしおりの記念品を贈呈した。

(1) 資料整理、デジタル化

令和7年度は以下の資料のデジタル化を行った。順次データベースに登録し、資料情報の整理を終えたものから公開する。

資料内容	点数	受入年度
S Pレコード (音源化およびレーベル画像撮影)	200枚 (400点)	平成11年
アニメーション映画、スポーツニュース等	16点	令和7年
短編映画	11点	平成20年

(2) 昭和館S Pレコード鑑賞会

昭和館が収蔵するS Pレコード資料を紹介するため、令和6年の第3回に続き、1階ニュースシアターにおいてS Pレコード鑑賞会を開催した。

第4回目

日時：令和7年8月17日（日）

内容：ハチ公の鳴き声が記録されている『忠犬ハチ公』や美空ひばりの『河童ブギウギ』など、戦前から戦後にかけて発行された演芸や流行歌のS P レコード6点をアナログ再生した。

参加者：58人

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」では、令和7年度は210本のニュース映画とオーラルヒストリー12作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和8年2月6日（金）から15日（日）に平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催した特別展「水彩画が語る シベリア抑留の記憶」の連携企画として、シベリアで約4年間の抑留生活を送った江藤晃さんのオーラルヒストリーを上映し、連携をはかった。

4 収蔵資料

（1）図書資料の収蔵状況

令和7年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（令和8年3月末現在）

国民生活関係図書	76, 783冊
戦争に関する基本的図書	24, 910冊
独自資料	35, 980冊
その他基本図書（年鑑、新聞等）	11, 692冊
合 計	149, 365冊

<令和7年度の主な受入資料の内訳>

- | | |
|-----------------------------|---------|
| ○ 国民生活関係 | 1, 399冊 |
| ・当時刊行された雑誌類や生活体験記等 | |
| 『神戸大空襲を忘れない 戦後80年、明日へつなぐ記憶』 | |
| 『隣組防空絵解』 | |
| 『戦争に勝つ食物』等 | |
| ○ 戦争に関する基本的図書 | 309冊 |
| ・太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等 | |
| 『外務官僚たちの大東亜共栄圏』 | |
| 『パッシング河畔 第301救護班員』 | |

『わが青春のアルバム 砲七会二十五周年記念誌』等

○ 定期購読誌

『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和7年度は、芳水国民学校（現・品川区立芳水小学校）の疎開写真や女子通信隊元隊員の写真等を入手し、館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和7年度の主な受入資料>

- | | |
|---|---------|
| (1) 記録写真 | 1, 128点 |
| 帝国繊維株式会社玉島工場発行の写真帖（昭和18年） | |
| 芳水国民学校疎開写真（昭和19年～20年頃） | |
| 立教中学校卒業記念写真（昭和20年頃） | |
| 進駐軍の米兵が撮影した都内や鎌倉の写真（昭和25年頃撮影） | |
| 女子通信隊の着任時や同窓会の写真（昭和18年～昭和40年撮影）他 | |
| (2) 映像資料 | 25点 |
| 新日本ニュース（269号～273号） | |
| コロムビア芸術団の慰問映像 | |
| 「さようならカバくん」「ヒロシマのうた」などのアニメーション映画 他 | |
| (3) 音響資料 | 147点 |
| 「軍事郵便」「僕も戦争に行きたいナー」「先生の出征」など時局関係の童謡レコード 他 | |

<令和8年3月末現在の公開データ件数>

	データ件数
静止画資料	42, 160件
動画資料	3, 705件
音響資料	18, 162件
計	64, 027件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内１１０カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

1 運用管理

（１）システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。

令和７年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は７０６，０３９件、月平均約５８，８３７件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和７年４月	3,231	2,363	33,072	9,126	3,489	224	51,505
５月	3,341	2,941	43,094	10,440	4,783	245	64,844
６月	4,175	2,182	39,328	10,178	3,784	435	60,082
７月	3,733	2,766	41,916	11,669	4,424	432	64,940
８月	4,072	5,050	57,685	16,544	6,693	389	90,433
９月	4,043	2,547	33,094	8,490	4,327	358	52,859
１０月	3,345	2,031	28,232	7,393	4,067	179	45,247
１１月	3,039	1,963	42,742	9,351	3,471	270	60,836
１２月	3,053	2,388	39,622	9,476	2,779	284	57,602
令和８年１月	3,416	1,897	34,683	7,442	2,133	244	49,815
２月	2,811	2,299	34,015	8,338	3,354	254	51,071
３月	2,334	1,159	40,913	9,345	2,872	182	56,805
合 計	40,593	29,586	468,396	117,792	46,176	3,496	706,039

（２）データベース運用管理

図書室及び映像・音響室では、収蔵資料のデジタル化、記録資料のデータベース化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

【総合データベース】

○ 図書資料データベース

図書室が収蔵する、図書、雑誌の書名・著者名・雑誌名等の書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力し、検索ができる目録データベース。図書、雑誌以外では、地図、海図についても図名その他、地域や海域からの検索することができる。図書、雑誌、地図、海図の全ての資料の横断検索も可能である。

○ 映像・音響資料データベース

映像・音響室が収蔵する写真、映像及び音響資料(S Pレコード)の資料情報(タイトル、年代、作曲者名等)をデータベース化し、検索・閲覧(視聴)できるデジタルアーカイブ。写真、映像、音響資料の横断検索も可能である。

【個別データベース】

○ デジタルライブラリー

年鑑と雑誌をデジタル化し、検索・閲覧できる昭和館オリジナルのデータベース。収録された雑誌間での横断検索も可能である。
現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文藝春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」「少国民新聞(東日版)」「スポーツニッポン」「教材ニュース」「文化ニュース」等

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデジタル化し、検索・閲覧できるオリジナルデータベース。キーワードによる横断検索も可能である。

(3) デジタルアーカイブの運用

令和5年4月1日から「昭和館デジタルアーカイブ」で昭和館の所蔵資料の情報を公開している。

令和7年度のアクセス総数は1,782,307件、月平均約148,526件であった。

令和7年度は、デジタルアーカイブのコンテンツ充実を加速させ、実物資料約460点、写真約4,600枚、S Pレコード約2,150件などを追加した。

(4) ホームページ運用管理

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会、S Pレコード鑑賞会、バーチャル昭和館、クイズ、なぞ解きといった催し物の案内に加えて、次

世代の語り部事業についても定期講話会の最新情報を発信し、随時更新を行った。

令和7年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均 アクセス数	開館時（or 導入時） からの累計
ホームページ	2 1 4, 4 5 5	1 7, 8 7 1	4, 9 2 1, 6 5 3

（5）SNSの活用

広報の一環として、X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube での情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和8年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

X（旧Twitter） 閲覧者数	Facebook 閲覧者数	YouTube視聴回数
2 5 7, 8 9 9	1 6, 6 0 5	5 4 6, 2 2 2
X ポスト数	Facebook 投稿数	
3 1 6	2 4 7	

（6）Wi-Fi 提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室、7階・6階常設展示室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

令和7年度は、疎開や空襲体験など、戦中・戦後の生活について3名の聞き取りを行い、3作品を制作した。

令和7年度の制作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
戦争がそばにいた	馬場あき子
人に恵まれた疎開、踊りが生きる意味になるまで	雑賀淑子
自伝「喜三郎の生涯」に記した子ども時代	成宮喜三郎

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

- ① 「昭和館館報」については、東京特別区、各省庁図書館等に対して送付した。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和くらし研究（紀要）」を送付した。
- ② 令和7年度は、東京都の市区校長会の協力を得て、同年6月に23区9市1,059校に昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより43号」、「昭和館パンフレット・リーフレット」、「貸出キット」、「次世代の語り部講話派遣」、「作文コンクール」の各チラシを配布および送付し、来館促進を図った。
あわせて千代田区の小学校の全生徒、千代田区を除く22区と9市の小学校に「昭和館だより第43号」を送付した。
- ③ また、令和7年6月に1都3県の公立小学校に「昭和館だより43号」を送付した。さらに11月下旬までに来館した中学校・高等学校に「中学生・高校生ポスターコンクール」のチラシ、ポスター等を送付し周知を図った。
- ④ さらに、東京都小学校社会科研究会の協力を得て「昭和館だより43号」「貸出キット」「作文コンクール」「次世代の語り部講話派遣」のチラシを配付し、広報に努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館事業内容のPRのため、都営新宿線九段下駅4出口、東京メトロ東西線2番ホームの電飾掲示板に掲示し事業内容のPR活動を行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報等に当館の紹介記事を掲載した。

その他、読売新聞、東京新聞、日本教育新聞等に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより第43号」を令和7年6月に発行し、(1)に記載した教育関係機関へ送付した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を次世代に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「次世代の語り部」を育成する事業を平成28年度から開始した。

1期生から3期生まで募集を行い、月1回のペースで3年間の研修を

実施した。現在「次世代の語り部」として18名が委嘱を受け、講話活動を行っている。

② 事業の実施状況

ア 令和7年度は昨年度に引き続き、月1回の定期講話会をはじめ、小・中学校や自治体等からの要請を受け、講話活動を行った。

講話のテーマは以下のとおり。

	テーマ	対象
1	戦中の小学生	小学校高学年から中学生
2	学校生活と子どもたち（戦前・戦中編）	小学校6年生から中高生
3	軍事郵便を聞く	中学生から一般
4	戦争と学生～過酷な時代を生きた大学生と彼らを取り巻く人々の想い～	高校生から一般
5	軍国少年の戦中・戦後～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～	小学校高学年から一般
6	空白の3年8か月～天気予報と戦争～	中学生から一般
7	学童疎開～戦時下の親元を離れての集団生活～	小学校高学年
8	白米が憧れだった頃～戦中・戦後の人びとの米への強い想い～	一般
9	ぼくの家にも戦争があった	小学校中学年から中学生
10	沖縄の光と影～今を支える戦争の記憶～	小学校高学年から中学生
11	戦災孤児たちの願い～もしも魔法が使えたら～	小学校6年生から中学生
12	戦時下の中学生～学校生活と学徒勤労動員～	小学校6年生から一般
13	残された家族～家族を戦争で失くした人たちの思い	小学校5年生から一般
14	国策紙芝居で知る戦時下の暮らし	小学校6年生から一般
15	熱田空襲下の学徒動員体験記～航空機製造へ舵を切った愛知時計電機～	高校生から一般
16	戦中の子どもの学校生活～昭和8年生まれの子どもたち～	小学校高学年
17	フミちゃんと沖縄戦～それでも私は生きる～	中学生から一般
18	子どもの戦中・戦後の暮らし～島本京子さんの体験から	小学校6年生から中学生
19	戦争と動物～戦争で犠牲になった動物たち～	小学校高学年から一般
20	1945年8月1日の空襲	一般

イ 定期講話会

毎月第一日曜日に昭和館ニュースシアターで定期講話会を実施した。各回2名の次世代の語り部が講話を行い、参加者数は以下のとおり。

回	開催日	参加者数
第４７回	令和７年 ４月 ６日	２４人
第４８回	５月 ４日	３０人
第４９回	６月 １日	２０人
第５０回	７月 ６日	４５人
第５１回	８月１０日	８２人
第５２回	９月 ７日	３８人
第５３回	１０月 ５日	１２人
第５４回	１１月 ２日	１８人
第５５回	１２月 ７日	２６人
第５６回	令和８年 １月１１日	３５人
第５７回	２月 １日	１６人
第５８回	３月 １日	１３人
参加者数合計		３５９人

ウ 派遣講話

学校や自治体等からの要請を受けて派遣講話を行っている。
実施状況は以下のとおりである。（令和８年３月末現在）

派遣先	派遣件数	参加者数
学校関係	５５	４，８７２
自治体関係	１４	５７２
その他	１５	６６６
合 計	８４	６，１１０

＜派遣先＞（派遣順・昭和館開催を含む）

【学校関係】

京華商業高等学校 2 年生／世田谷区立砧南小学校 6 年生（2 回）／横浜市立ろう特別支援学校中学部 1 ～ 3 年生／福島大学附属小学校 6 年生／北区立西浮間小学校 6 年生／学校法人青山学院初等部 6 年生／あきるの市立草花小学校 6 年生（2 回）／上野原市立上野原西中学校 1 ～ 3 年生／杉並区立第六小学校 5 年生／杉並区立和泉中学校 1 年生／洗足学園小学校 5 年生／川崎市立西菅小学校 3 ・ 4 年生／白梅学園大学 2 年生／上野学園中学校 1 ～ 3 年生／品川区立山中小学校 6 年生／足立区立千寿常東小学校 6 年生／横浜富士見丘学園高等学校 2 年生／江東区第二大島小学校 6 年生／荒川区立第三峡田小学校 6 年生／東洋大学国際観光学部 2 年生／静岡大学附属小学校 6 年生／江東区立豊洲北小学校 6 年生／浜松市立和田小学校 6 年生／大田区立相生小学校 6 年生／墨田区立緑小学校 6 年生／江戸川区立船堀小学校 6 年生／品川区立城南小学校 6 年生／三鷹市立大沢台小学校 6 年生／開智所沢中等教育学校 2 年生／四街道市立吉岡小学校 6 年生／小金井市立南中学校 1 年生／府中市立日新小学校 6 年生／三郷市立高州東小学校 6 年生／葛飾区立北野小学校 6 年生／東村山市立東村山第一中学校 2 年生／友国際文化学院／野田市立福田第一小学校 6 年生／国分寺市立第九小学校 6 年生／八王子市立中野北小学校 6 年生／練馬区立上石神井小学校 6 年生／大田区立貝塚中学校 2 年生／千代田区立千代田小学校 6 年生／荒川区立瑞光小学校 6 年生／三鷹市立中原小学校 6 年生／中野区立北原小学校 6 年生／藤沢市立湘洋中学校 1 年生／聖心ウルスラ学園高等学校 2 年生／文京区立小日向台町小学校 6 年生／文京区立駕籠町小学校 6 年生／杉並区立向陽中学校 2 年生／三浦市立南下浦中学校 1 年生／横浜市立義務教育学校霧が丘学園 8 年生／横浜市立義務教育学校霧が丘学園 7 年生／東京都立高島高等学校 1 年生

【自治体関係】

船橋市議会／公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団／台東区役所総務課／千代田区立四番町図書館／吉川市市民推進課／港区立赤坂図書館／甲州市教育委員会／江東区立江東図書館／栃木市／小平市青年会議所／市原市立国分寺公民館／浦安市社会福祉協議会／練馬区立光が丘図書館／渋谷区文化振興課交流推進係

【その他】

UA ゼンセン神奈川県支部／陸上自衛隊中央音楽隊／東京土建一般労働組合／栃木県平和学習会／里葉子ども食堂／東京土建荒川支部／朝霞・平和のための戦争展実行委員会／越谷ロータリークラブ／埼玉土建新座支部主婦の会／さいたま市シニアユニバーシティ史跡めぐり／浦安市社会福祉協議会／陸上自衛隊中央音楽隊／江東きつずクラブ深川／真宗大谷派東本願寺真宗会館／青少年小岩中部地区委員会

エ 「次世代の語り部」としての知識や意識の向上をはかるため、8月15日に日本武道館で開催された全国戦没者追悼式に参列した。

(5) 第24回昭和館作文コンクール

昭和館または巡回特別企画展を見学および、「次世代の語り部」講話を聴く、あるいは昭和館 YouTube でオーラルヒストリー（証言映像）を視聴した小・中学生を対象に実施した。

今年度は、令和8年1月6日（火）消印有効で締め切り、団体応募が11校（小学校3校、中学校8校）336作品、個人が25作品（小1～6・中1～3）、計361作品の応募があった。内容の題材は、見学が221作品、オーラルヒストリーが129作品、次世代の語り部講話が2作品、その他9作品であった。

審査の結果、厚生労働大臣賞・昭和館館長賞、優秀賞8作品を決定した。3月上旬に賞状及び賞品の送付、3月下旬にホームページで各賞の発表を行った。

(6) 第18回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計49作品の応募があった。

審査の結果、広島県立尾道北高等学校 藤本遙さんの作品が最優秀賞に（別掲）、優秀賞（別掲）に5作品、佳作に10作品（別掲）が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館紀要『戦後80年記念 昭和のくらし研究』第24号を令和7年12月に刊行した（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第24号 目次

戦後八〇年記念号刊行のごあいさつ・・・昭和館館長 伍藤忠春

国家総動員法における「国民登録」の実働形態

－一般登録者の申告票と登録票を事例に－

・・・・・・元しょうけい館（戦傷病者史料館）学芸課長 木龍克己

戦後の東京都における鼠防除

・・・・・・昭和館学芸部 高橋奈津子

資料紹介 第六次建物疎開における人員動員について

－昭和館所蔵資料「緊急建物疎開ニ伴フ勤労要員ノ短期動員ニ関スル件」－

・・・・・・昭和館学芸部 高橋彩華

写真家 師岡宏次の足跡をたどる－収蔵写真の整理と活用の可能性－

・・・・・・昭和館図書情報部 舟越寿尚

昭和のくらし研究第24号



3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和8年3月31日時点 50音順、敬称略)

委員長	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
委 員	石 井 正 広	(全国小学校社会科研究協議会会長新宿区立四谷小学校校長)
〃	笛 吹 雅 子	(日本テレビ放送網(株)報道局総合ニュースセンター)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館研究部教授)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)
〃	八 神 敦 雄	(社会福祉法人友愛十字会理事長元厚生労働省医薬・生活衛生局長)
〃	山 田 邦 夫	(外務省大臣官房総務課公文書監理室レコードマネージャー)

※令和7年3月31日宇野裕委員退任。

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに26回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和8年3月31日時点 50音順・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委 員	江 田 肇	(一般財団法人日本遺族会常務理事・埼玉県遺族連合会会長)
〃	加 藤 聖 文	(国文学研究資料館准教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(目黒区立第九中学校教諭)
〃	増 田 弘	(立正大学名誉教授)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)

5 インターンシップ

高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ(職業体験)」(ハローワーク飯田橋より依頼)は、コロナ禍以降、依頼がなくなっている。今後は、依頼があった場合受け入れられるよう準備する。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館（戦傷病者史料館）、帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）、しょうけい館（戦傷病者史料館）、昭和館 〕

- (1) 第28回会議を令和7年6月13日（金）に開催
第29回会議を令和8年2月20日（金）に開催

- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和7年7月19日（土）～9月7日（日）
参加者数：6, 166人

- (3) 特別展「水彩画が語る シベリア抑留の記憶」を開催
開催期間：令和8年2月6日(金)～15日(日)
主 催：帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）
協 力：昭和館、しょうけい館（戦傷病者史料館）
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

- (4) 巡回特別企画展の相互協力
秋田県における巡回特別企画展は、しょうけい館（戦傷病者史料館）、帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）と同じ会場で同時開催し、連携を図った。

- (5) 戦後80年記念事業

令和7年は、戦後80年の節目にあたることから、戦中・戦後の国民生活上の労苦と昭和の戦争の記憶を継承する当館の周知を図るための各事業、企画、イベント等を実施した。

① 戦後80年 記念シンポジウム

「記憶」を伝えるということ

～戦争体験者がいない未来の戦没者関連事業・伝承・メディア～

戦後80年の節目の年を迎えるにあたり、昭和史に関する史資料の情報公開・活用について詳しい有識者を招き、記念シンポジウムを開催した。

- ・開催日時 令和7年8月3日（日）午後1時～午後4時
- ・会 場 九段会館テラス 2階鳳凰の間
(東京都千代田区九段南1丁目6－5)

- ・パネリスト 【ディスカッション モデレーター】
ジャーナリスト 池上 彰
【ディスカッション パネリスト】
作家 保阪 正康
呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長 戸高 一成
NHKエグゼクティブ・ディレクター 右田 千代
- ・参加者数 1 5 2 人

- ② 戦後80年記念スタンプラリー（達成度に応じた粗品贈呈）
常設展示室への入室を条件とした館内誘導策として下記期間で実施した。
実施期間：令和7年4月1日（火）～12月27日（土）
（景品交換は令和8年1月末まで）

- ③「蔵出し映像から考える戦後80年」と題して特別映画上映会を開催した。
昭和館が所蔵する引揚援護庁監修の「戦後の日本」「引揚港」、中央共同募金会企画の赤い羽根シリーズ「愛情の町」の他、一般邦人のシベリア抑留者を描いた「阿彦哲郎物語」（2023年公開）の合計4作品を上映した。

- ・開催日時 令和7年10月19日（日）
午前10：30～、午後13：30～
- ・会 場 昭和館3階研修室
- ・入場者数 105人

7 天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下の行幸啓

令和7年12月21日（日）天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下が行幸啓され、戦後80年特別企画リバイバル展示「石川光陽写真展 戦時下の東京」、及び常設展示室をご観覧された。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 戦後80年 特別企画展

「社会を映す、動かす一ポスターにあらわれる国策宣伝の姿―」

昭和12年（1937）の日中戦争勃発以降、国民の戦意高揚を図るために国策宣伝が積極的に行われた。ポスターは視覚的に効率よく宣伝内容を印象付けるものとして重要視され、官民間わずさまざまな団体によって制作された。それらは街中に貼られ、国民に国策への協力を広く呼びかけた。

本企画展では、昭和館ポスターコレクションを通じて戦時下における国策宣伝について紹介した。

開催期間：令和7年7月19日（土）～9月7日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：15,731人
(358人/日)

<展示構成>

プロローグ 第一次世界大戦とポスター

I. 国家主導の宣伝活動

II. 担い手と文化の動員

III. 国策宣伝の多角的メディア展開

エピローグ



2 特別企画展

「昭和映画録 ―二度の黄金時代―」

昭和の時代、日本映画は二度の黄金期を経験し発展を遂げてきました。無声映画からトーキー映画に代わる 1930 年代、そして映画が大衆娯楽の中心として絶頂期を迎える 1950 年代。この黄金期の間には、戦争・占領・復興を経て変化し続ける日本社会の姿があった。

昭和 100 年を迎えた今、本企画展では映画の歴史をたどりながら、社会・文化と大きく変容を遂げた昭和の時代を振り返る企画展を開催した。

開催期間：令和8年3月20日（金）～5月10日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：13,361人（297人/1日）
※令和7年度は4,078人

<展示構成>

I. トーキーと映画革命

II. 戦争と統制の時代

III. 復興・再びの黄金時代

エピローグ



3 戦後80年特別企画写真展

「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」

開催期間：令和7年3月1日（土）～6月29日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：警視庁で写真撮影を担当していたカメラマン、石川光陽の作品を3期にわたって紹介する。第2期では、日中戦争が始まった昭和12年から20年8月15日終戦の頃までの写真を展示した。

入場者数：29,478人
（278人／日）
（内、令和7年度は
22,057人）



4 戦後80年特別企画写真展

「石川光陽写真展【第3期】終戦・復興する東京」

開催期間：令和7年7月5日（土）～12月21日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：警視庁で写真撮影を担当していたカメラマン、石川光陽の作品を3期にわたって紹介する。第3期では、終戦を迎えた昭和20年から30年代にかけて撮影された写真を展示した。

入場者数：38,396人
（263人／日）



5 戦後80年特別企画リバイバル展示

「石川光陽写真展 戦時下の東京」

開催期間：令和7年12月16日（火）～令和7年12月26日（金）

会 場：昭和館3階特別企画展会場

展示内容：3期にわけて紹介した警視庁で写真撮影を担当していたカメラマン、石川光陽の写真を戦後80年特別企画リバイバル展示として、昭和12年から20年8月15日終戦の頃までの写真を展示した。

入場者数：1,952人
（195人／日）



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する写真・映像資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーにコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和7年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第96回	第17回中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品展示	令和7年4月1日（火） ～6月29日（日）
第97回	こんな博覧会がありました	令和7年7月1日（火） ～9月30日（火）
第98回	食卓からみた昭和	令和7年10月1日（水） ～12月27日（土）
第99回	新収蔵資料 愛児の家～「ママ」と戦災孤児の10年間～	令和8年1月6日（火） ～3月31日（火）

1 昭和館入場者状況の推移（平成11年度～令和7年度）

	常設展示室						映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースシアター	総 計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料	合計					
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,388	31,142	-	176,612
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,805	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,855	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114
令和3年度	8,714	1,366	10,939	848	2,047	23,914	12,246	5,832	31,583	8,888	82,463
令和4年度	14,955	2,728	26,768	1,361	4,638	50,450	19,239	9,351	52,320	12,055	143,415
令和5年度	19,416	3,186	28,402	1,669	5,908	58,581	27,841	11,940	51,025	19,783	169,170
令和6年度	19,815	3,509	23,961	1,545	5,625	54,455	32,912	13,397	114,916	59,194	274,874
令和7年度	24,378	3,953	26,957	2,436	7,017	64,741	35,857	15,283	96,489	36,343	248,713
合 計	696,969	78,802	680,370	29,974	138,193	1,624,308	835,911	464,837	1,806,042	2,547,997	7,279,095

2 令和7年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特別 企画展等	合 計	特別企画展等内訳
令和7年 4月	4,167	2,561	1,121	4,044	15,965	27,858	4/1 (3/1～6/29) 写真展期間 4/1 (3/15～5/11) 特別企画展期間
5月	5,688	2,931	1,145	2,983	9,627	22,374	～5/11 特別企画展期間 写真展期間 5/24 紙芝居定期上演会
6月	7,354	3,174	1,304	2,578	6,351	20,761	5/30～6/5 広島県巡回特別企画展期間 ～6/29 写真展期間
7月	6,709	3,609	1,800	3,582	9,205	24,905	7/5～ 写真展期間 7/19～ 特別企画展期間 7/19～ 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 7/26 紙芝居定期上演会
8月	8,754	4,766	2,353	6,179	24,154	46,206	写真展期間 特別企画展期間 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間
9月	5,507	2,786	1,296	2,910	8,500	20,999	～9/7 写真展期間 ～9/7 特別企画展期間 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 9/27 紙芝居定期上演会
10月	3,723	2,330	1,115	2,548	6,176	15,892	9/29～10/7 秋田県巡回特別企画展
11月	6,721	3,240	1,210	2,970	5,895	20,036	11/22 写真展期間 紙芝居定期上演会
12月	7,107	3,230	1,036	2,447	6,131	19,951	～12/21 写真展期間 12/16～12/26 リバイバル写真展期間
令和8年 1月	0	1,756	927	1,394	120	4,197	1/6～2/9 常設展示室休室 1/24 紙芝居定期上演会
2月	4,379	2,665	959	1,592	16	9,611	1/6～2/9 常設展示室休室
3月	4,632	2,809	1,017	3,116	4,349	15,923	3/20～5/10 特別企画展期間 3/28 紙芝居定期上演会
合 計	64,741	35,857	15,283	36,343	96,489	248,713	

3 常設展示室入場者数

総 数	区 分	種 別	人 数	割合 (%)
64,741人	有料 30,767人	高・大学生	3,953人	6.1
		一 般	26,814人	41.4
		小・中学生	26,957人	41.6
	無料 33,974人	視察者等	5,552人	8.6
		心身障害者	1,199人	1.9
		未就学児	266人	0.4

(参考) 団体による来館学校数

総 数	区 分	学校数	割合 (%)
334校	小学校	268校	80.2
	中学校	58校	17.4
	高 校	4校	1.2
	専門学校	2校	0.6
	大 学	2校	0.6

4 来館団体御芳名

※100名以上の団体のみ記載

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
4月28日	中央区立月島第三小学校	130人	9月5日	小金井市立東小学校	122人
5月13日	いなべ市立大安中学校	138人	9月9日	板橋区立志村坂下小学校	112人
5月20日	世田谷区立砧南小学校	196人	9月9日	世田谷区立下北沢小学校	120人
5月23日	中央区立佃島小学校	127人	9月11日	大田区立高畑小学校	109人
5月26日	神戸市立小部中学校	167人	10月23日	東村山市立東村山第七中学校	128人
5月29日	海老名市立柏ヶ谷中学校	187人	11月6日	杉並区立杉並第二小学校	103人
6月3日	目黒区立大岡山小学校	121人	11月11日	江東区立豊洲北小学校	146人
6月3日	江戸川区立葛西小学校	147人	11月13日	杉並区立高井戸第二小学校	122人
6月3日	柏市立柏第五小学校	143人	11月13日	新宿区立早稲田小学校	104人
6月4日	京都市立衣笠中学校	140人	11月21日	江戸川区立船堀小学校	137人
6月10日	江東区立枝川小学校	130人	11月26日	横浜市立豊田中学校	192人
6月10日	八潮市立大瀬小学校	128人	11月27日	江戸川区立西一之江小学校	104人
6月10日	西東京市立栄小学校	104人	11月28日	江戸川区立小松川中学校	195人
6月19日	江東区立東陽小学校	100人	12月2日	品川区立城南小学校	105人
6月19日	船橋市立葛飾小学校	165人	12月5日	船橋市立法典小学校	166人
6月20日	中央区立月島第二小学校	100人	12月9日	練馬区立光和小学校	120人
6月24日	府中市立若松小学校	104人	12月9日	江戸川区立西葛西小学校	110人
6月24日	四街道市立和良比小学校	138人	12月11日	練馬区立仲町小学校	131人
6月26日	世田谷区立東深沢小学校	138人	12月11日	北区立都の北学園	142人
6月26日	江戸川区立南葛西小学校	111人	12月16日	江戸川区立船堀第二小学校	106人
6月27日	名張市立赤目中学校	106人	12月16日	調布市立柏野小学校	109人
6月27日	北区立西浮間小学校	116人	12月18日	世田谷区立桜町小学校	151人
7月8日	東大和市立第八小学校	102人	12月19日	江東区立明治小学校	126人
7月8日	港区立白金の丘小学校	116人	12月23日	小平市立小平第八小学校	101人
7月9日	武蔵野市立第一小学校	103人	12月23日	小平市立小平第三小学校	127人
7月9日	文京区立千駄木小学校	138人	2月10日	文京区立林町小学校	104人
7月10日	世田谷区立松原小学校	123人	2月10日	国分寺市立第九小学校	104人
7月10日	大田区立馬込小学校	122人	2月13日	練馬区立上石神井小学校	114人
7月15日	北区立浮間小学校	126人	2月17日	練馬区立北町小学校	108人
7月16日	麴町学園女子中学校高等学校	114人	3月3日	暁星小学校	113人
7月16日	船橋市立坪井小学校	218人	3月6日	早稲田実業学校初等部	101人
9月2日	三鷹市立井口小学校	105人	3月18日	東京都立両国高等学校	144人

5 第24回 昭和館作文コンクール

厚生労働大臣賞

あの日が近くなった日

長与町立長与中学校 2年
岡本 宗士

僕は、原爆の被爆地である長崎に住んでいます。だから小さいころから平和について学ぶ機会が多く、学校の授業や原爆資料館、平和祈念公園などで過去の戦争についての知識を重ねてきました。しかし、当時の人がどんな気持ちで日々を過ごしていたのかを想像することは難しく、いつも自分の生活から遠い世界の出来事のように思えていました。

そんな僕の考えが大きく揺さぶられたのは、中学2年生になり、昭和館のオールヒストリーを見て作文を書くことになった時です。数ある映像のなかで、僕は半藤一利さんの語りを選びました。半藤さんは東京で空襲を経験した方で、語られていた当時の年齢は十四歳。ちょうど今の僕と同じ年齢でした。

映像の中で半藤さんは、空襲のあと、焼け跡で亡くなった人の遺体を運ぶ手伝いをしたと静かに語っていました。十四歳の少年がそんな過酷な体験をしていたという事実は、僕にはとても信じられませんでした。自分がその場にたたされていたとしたら、何ができたのかと想像するだけで足がすくみました。

さらに印象に残ったのは、半藤さんが「自分は“絶対”という言葉は使わない」と話していたことです。“絶対”という言葉は物事を一つの考えに閉じこめてしまい、他の可能性を見えなくしてしまいます。半藤さんは、当時絶対勝利や絶対大丈夫と思っていたけれど、全部嘘だったと語っていました。僕はその姿に経験だけではなく、生き方としての力強さを感じました。

映像を見終わったあと、僕はただの昔の話として聞いていた戦争が急に自分のすぐそばにある現実のここのように思えて、しばらく動くことができませんでした。僕は学校に行き、友達と笑い、家で安心して眠る毎日を過ごしています。しかし、同じ年齢の半藤さんは、空襲の恐怖と向き合いながら、亡くなった人たちと向き合わざるを得ない日常を生きていたのです。

これまで僕は「日本ではもう戦争は起こらない」とどこかで思い込んでいました。でも、世界では今も紛争が続き、平和が壊れてしまう瞬間をニュースで何度も見えています。もしも日本でも同じようなことが起きてしまったら、と考えると胸がざわつき、言葉にできない恐ろしさを感じます。けれどその怖さから逃げてしまえば、過去の悲劇と同じ過ちを繰り返してしまうかもしれないとも思います。

だから僕は、半藤さんの言葉を思い出しながら、物事をひとつの考えに決めつけず、自分の頭で考えつづけたいと思います。そして、平和の尊さを学びながら、いつか自分の言葉で誰かに伝えられる人になりたいと思います。過去の出来事を自分の未来につなげることこそ、今を生きる僕にできる小さな一歩だと信じています。

昭和館館長賞

先人たちの声に耳を傾ける

光塩女子学院中等科 3年

新保 萌々子

私の住む高円寺では毎年8月、阿波踊りが開催される。国内外から人が集まるこのお祭りは私の誇りだ。しかし、その賑わいの裏にある戦争、歴史の影を私は知らなかった。

それを知るきっかけとなったのが、昭和館のオーラルヒストリーだ。空襲後、家に帰った時を回想した「駅に降り立ったら全てが焼け野原」「ぽっかり穴が空いていた」という小堀初枝さんの証言に、胸が締め付けられた。更に、困窮から学校を中退し働くことになり、「学生に会うのも嫌だった」という言葉から、戦争は命や建物だけでなく、日常や希望までも人々から奪ったものと痛感した。

私の住む街は昔どんな姿だったのだろう。調べてみると、空襲被害を色で示す地図に出会った。—ここも空襲を受けていたの？そこには自分の家がある場所が真っ赤に染まっていた。さらに、近所の公園も、通っている学校さえも、空襲の被害があったようだ。改めて突きつけられた事実胸が苦しくなった。終戦から80年経った今、戦争の惨禍の爪痕がほとんど見えないほど街は発展している。しかし、新しい建物、草木、そして今私が立っているこの地面も、戦争の時代を経て今に繋がっているのだ。そう頭では分かっている、どこか現実とは思えなかった。

更に調べを進めると、阿波踊りと戦争の関係が見えてきた。昭和20年、焼け野原となった高円寺。その後商店街の青年部が街の賑わいを求め、阿波踊りを立ち上げたという。そして、多くの人の「街を盛り上げたい」という願いは現代まで脈々と受け継がれている。オーラルヒストリーの証言にあった、戦後、子どもながら親と共に働き「復興に尽くした」という高野文太郎さんの言葉をふと思い出した。先人たちの復興に懸ける強い思いが、今の豊かな暮らしの土台を築いていたのだ。

街に出ると、多くの人が賑わっていた。今日は阿波踊りが開催される日だ。街行く人たちの顔には笑顔が灯り、活気に溢れるこの景色も、以前とは違って見える。私は今まで、「戦争」というものをどこか、遠くの世界の出来事のように感じていた。しかし今回、自分の街の昔の姿から先人の復興に対する思いや心情を知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。それと同時に、こんな悲惨な戦争は二度と繰り返されてはいけない、そして自分の街が再び焼け野原になる姿を見たくない、そう強く思った。これまで街を発展させてくれた先人たちからバトンを受け取った私たちにできること、それは、過去を学び続ける姿勢を持つことだ。戦争の爪痕が見えづらくなっている今、戦争は簡単に風化してしまいそうになる。その中で、オーラルヒストリーを通して、紙や写真だけでは知り得ない証言者の方の経験や心情を知る機会が重要だ。先人たちの思いを大切に、戦争がもたらしたものを未来に伝え続けていくことが私たちの使命なのではないかと感じた。

6 第18回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
広島県立尾道北高等学校 藤本 遥
【今夜はここで…】



優秀賞
沖縄県立浦添工業高等学校 長濱 一花
【休日】



優秀賞
川越市立砂中学校 木村 真実
【ぬくもり】



優秀賞
富山第一高等学校 齊藤 美陽
【ガラス玉に宿る家族の時間】



優秀賞
富山第一高等学校 田口 湊奈
【昭和の物たち】



優秀賞
浦和麗明高等学校 長谷部 凛
【青空の下】

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館(仮称)」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本龍太郎厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館(仮称)」建設の検討が進められた。

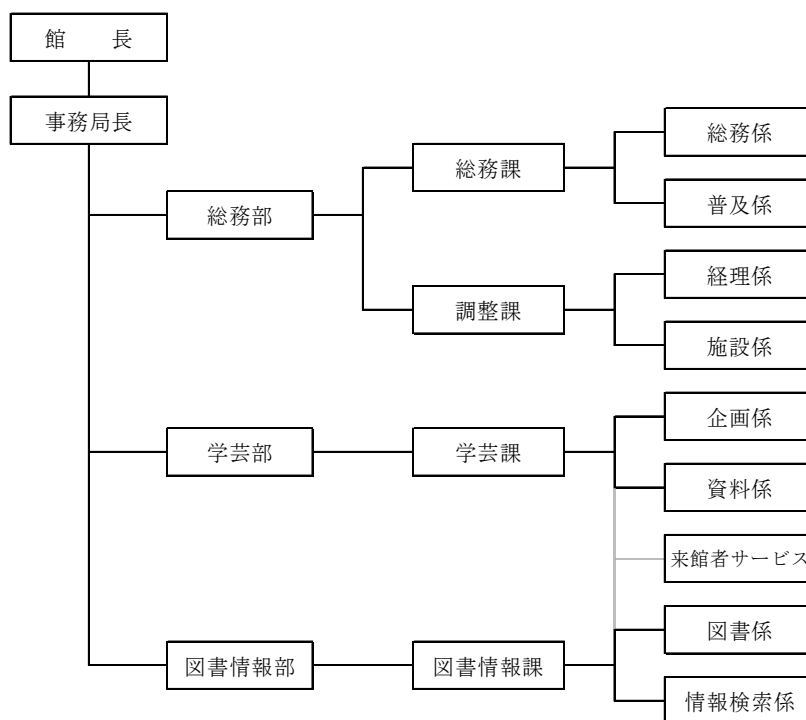
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館(仮称)」として厚生省(当時)予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S 造（鉄骨造）一部 S R C 造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員 （人）	避難施設	備 考
R 階	206.04	機械室		避難階段	
7 階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6 階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5 階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4 階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3 階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2 階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1 階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B 1 階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B 2 階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 令和7年度寄贈者御芳名

本年度に資料をご寄贈くださいました方のお名前を記してお礼といたします。

【団体】

(都道府県別、順不同、敬称略)

図書資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
北海道	千島歯舞諸島居住者連盟
〃	北海道博物館
〃	北海道被爆者連絡センター
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
秋田県	一般財団法人 秋田県遺族連合会
〃	本庫Honco
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館
茨城県	予科練平和記念館
群馬県	前橋市スポーツ観光部文化国際課
埼玉県	幸手市郷土資料館
〃	富士見市立難波田城資料館
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
千葉県	館山市立博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	歴史認識問題研究会
東京都	HOSEIミュージアム事務室
〃	JCIフォトサロン
〃	荒川ふるさと文化館
〃	一般財団法人 家具の博物館
〃	板橋区立郷土資料館
〃	江戸川区教育委員会事務局教育推進課文化財係
〃	株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	公益財団法人 水交会
〃	公益財団法人 野球殿堂博物館
〃	公益財団法人 陸修偕行社
〃	公益財団法人 海原会
〃	國學院大學博物館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟
〃	品川区立品川歴史館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	世田谷区立平和資料館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	千代田区立日比谷図書文化館
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	独立行政法人国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所
〃	日本カメラ博物館
〃	日本大学企画広報部広報課
〃	平和祈念展示資料館
〃	港区総務部 総務課 人権・男女平等参画係

都道府県	寄 贈 者 名
〃	武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館
〃	明治学院大学国際平和研究所
〃	明治大学史資料センター
〃	目黒区めぐろ歴史資料館
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
〃	横浜市史資料室
新潟県	柏崎市立博物館
〃	妙高市遺族会
富山県	富山大空襲を語り継ぐ会
長野県	飯田市美術博物館
〃	長野市立博物館
岐阜県	岐阜市歴史博物館
静岡県	静岡文化芸術大学
〃	沼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	東海市の戦争を記録する会
〃	名古屋市博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪いずみ市民生活協同組合
〃	大阪歴史博物館
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	西宮市立郷土資料館
〃	兵庫県遺族会
奈良県	一般社団法人 なら文化交流機構
〃	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山県立博物館
〃	和歌山市立博物館
島根県	松江歴史館
岡山県	岡山空襲展示室
広島県	NPO法人 ANT-Hiroshima
佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
長崎県	「引揚詩」記録の会 満岡剛太郎
熊本県	玉名市立歴史博物館ころろピア
宮崎県	宮崎市戦没者遺族連合会
沖縄県	沖縄県教育庁文化財課史料編集班
〃	ひめゆり平和祈念資料館
シンガポール	シンガポール日本人会

映像・音響資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
愛知県	豊田市戦没者遺族連合会

【個人】

(都道府県別、順不同、敬称略)

図書資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
北海道	菅原 早苗
宮城県	安孫子 真二
群馬県	今井 昭彦
埼玉県	井上 るみ
"	田中 敬祐
"	角田 龍郎
"	富田 勝彦
"	橋本 ゆう子
"	平賀 康正
"	松尾 麻由
"	渡邊 知久
千葉県	小暮 達夫
"	服部 晃
"	馬場 忠弘
"	安原 照雄
"	山下 ソノコ
東京都	池田 和生
"	伊能 秀明
"	岩田 鉄平
"	岩本 吉男
"	宇野 喜世
"	大久保 治男
"	沖野 晃久
"	神山 知徳

都道府県	寄 贈 者 名
東京都	幸田 正子
"	佐々木 孝子
"	志田 好江
"	柴田 卓
"	菅谷 雅彦
"	田熊 美智子
"	竹添 長和
"	土谷 靖雄
"	友野 清文
"	永井 清秀
"	西井 由紀子
"	林田 杏子
"	百武 伸茂
"	日笠 幸代
"	古橋 研一
"	松田 かおり
"	宮下 キヨ子
"	矢澤 幸生
"	山田 俊雄
"	和井田 一雄
神奈川県	飯野 和宏
"	糟谷 太郎
"	小松 良之
"	佐々木 和子

都道府県	寄 贈 者 名
神奈川県	中村 光夫
"	林 孝幸
"	伏見 千代
"	脇田 恵美子
"	渡邊 なるみ
新潟県	時岡 直実
石川県	竹村 一夫
静岡県	西家 文代
"	山本 公
京都府	宮本 喜久夫
兵庫県	奥村 元子
"	孝橋 由美子
"	富山 洋二
"	村岡 信明
奈良県	橋本 哲夫
和歌山県	森奈 良好
島根県	高宮 弘
岡山県	仙田 典子
広島県	小林 幸子
"	高岡 和彦
"	矢野 文恵
山口県	波多野 裕
長崎県	土肥原 弘久

映像・音響資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
福島県	小野 裕司
群馬県	岩瀬 年博
埼玉県	井上 るみ
"	小林 恵子
千葉県	氏家 美穂子
東京都	石川 令子
"	大橋 秀紀

都道府県	寄 贈 者 名
東京都	海津 更
"	清水 久弘
"	永井 清秀
"	林田 杏子
"	福田 匠
"	宮下 キヨ子
神奈川県	青田 有紀

都道府県	寄 贈 者 名
神奈川県	飯野 和宏
"	上野 賢二
大阪府	梅野 裕
兵庫県	富山 洋二
高知県	森本 正子
アメリカ合衆国	Lawrence J. Rooney III

実物資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
東京都	半藤 末利子
"	永井 清秀

都道府県	寄 贈 者 名
神奈川県	青田 有紀
"	糟谷 太郎

都道府県	寄 贈 者 名
神奈川県	小島 直美
長野県	坂口 浩

昭和館館報 第27号 (令和7年度)

令和8年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577